

実体経済の動向

◇生産、出荷とも根強い増勢基調

(生産——10月は大幅な伸長)

鉱工業生産(季節調整済み)は、7～9月+4.2%と増加したあと、10月(速報)も+2.9%と引き続き大幅な伸長を示した。3ヵ月移動平均による前月比でみても7月+1.0%、8月+1.7%、9月+1.8%と根強い増勢基調にある。この結果、年度初来(1)の生産増加率は年率で+29.8%に達した。10月の生産を財別にみると、7～9月に続いて各財とも増加傾向を続け、とくに一般資本財、建設資材の増勢が目だった。

最近の動きをやや詳しくみると次のとおり。

一般資本財……9月は標準変圧器、通信機械、圧縮機・送風機、合成樹脂加工機等を中心に+1.3%と増加。10月は設備投資関連大型機種(圧延機械、機械プレス)のほか、風水力機械(ポンプ、圧縮機・送風機)、ボイラー、クレーンの著増を主因に+7.3%と著伸。

資本財輸送機械……9月は鉄道用車両、需要期

控えの乗用車が大幅に増加したほか、中・大型トラック等も増加して+8.3%と著伸。10月も小型トラック、二輪自動車を中心に微増となった模様。

建設資材……堅調な建設需要を映じて金属製建具(アルミ・スチールサッシ)、みがき板ガラスが大幅に増加したほか、秋需期のセメント、製材の増加により、9月+4.2%と上昇のあと、10月もアルミサッシ、鉄骨、橋りょうを中心に+5.7%と続伸。

耐久消費財……9月は乗用車が需要期控えや自賠責保険料率引上げ見越しの需要増期待から大幅に増加したため+3.0%と上伸。10月も、在庫過剰のエアコンディショナーおよび前月増産の反動をみた乗用車が減少した反面、需要期控えの石油ストーブのほか、冷蔵庫、洗たく機、ラジオ等の家電製品が増加したため+2.0%の増加。

非耐久消費財……食料品、たばこを中心に9月+1.2%と増加したあと、10月も塩化ビニール製品、冬物メリヤス製品の増加などから+0.7%と微増。

生産財……9月+2.6%のあと、10月は鉄鋼(粗鋼、普通鋼圧延鋼材)、アルミニウム圧延品、電子機器部品、化学製品、合成繊維等の伸長により+2.1%と増加。

(出荷——10月も根強い増勢)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、7～9月+3.5%のあと、10月(速報)も+2.7%とかなりの増加を示した(なお、原指数の対前年同月比増加率は+20.8%と42年1月以来の高水準)。もともと、10月の出荷増は船舶の著増が響いており、例月フレの大きい船舶、鉄道車両を除くと増加幅は+0.8%と縮小。ただ内容をみると、耐久消費財が9月好伸の反動で減少したほかは、建設資材、非耐久消費財、生産財等いずれも堅調な実需を反映してかなりの増勢を継続している。

最近の出荷を特殊分類別にみると次のとおり。

一般資本財……9月は農業用機械、合成樹脂加工機、普通鋼鋼管、事務用機械等を中心に+6.9%と著増したあと、10月も風水力機械(ポンプ、

鉱工業生産の動向
(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		43年	44年				44年		
		10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月		8月	9月	10月
鉱	指 数	169.9	171.7	182.5	190.1		187.7	193.6	—
工	前期(月)比	4.6	1.1	6.3	4.2		-0.7	3.2	2.9
業	前年同期(月)比	17.6	15.5	16.8	17.1		16.2	18.0	18.2
投	資 財	7.3	0.2	5.4	4.8		-1.1	3.9	5.1
資	本 財	7.7	-0.7	5.2	5.4		0.5	3.7	5.4
同	(輸送機械を除く)	9.5	1.5	7.5	2.7		-0.4	1.3	7.3
輸	送 機 械	3.9	-3.9	0.3	9.8		0.8	8.3	—
建	設 資 材	6.8	1.9	5.9	3.8		-4.9	4.2	5.7
消	費 財	3.7	-0.8	8.5	2.7		-1.3	2.6	1.4
耐	久 消 費 財	6.3	1.5	7.8	5.0		0.9	3.0	2.0
非	耐 久 消 費 財	2.0	-0.3	6.2	0.9		-2.2	1.2	0.7
生	産 財	3.6	3.0	5.4	4.1		0.2	2.6	2.1

(注) 1. 通産省調べ、44年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

圧縮機・送風機)、圧延機械、クレーンが増加したため+1.3%と続伸。

資本財輸送機械……9月は船舶が減少したものの、乗用車、トラック、二輪自動車等の伸長から+1.4%の増加。10月は船舶が著増したほか、二輪自動車、小型トラックも増加し全体ではかなりの伸びとなった模様。

建設資材……秋需期のセメント、製材のほかアルミサッシの増加により、9月は+3.6%の増加。10月もアルミサッシ、鉄骨、橋りょうを中心に+5.9%と大幅な増加。

耐久消費財……9月はエアコンディショナーが異例の著伸を示したほか、乗用車、オートバイ、カラーテレビも増加し、全体では+5.9%と大幅に増加。10月は9月著伸の反動によるエアコンディショナーをはじめ冷蔵庫、カラーテレビ、石油ストーブの減少もあって-7.5%と3か月ぶりの減少。

非耐久消費財……食料品、医薬品等の増加から9月に+4.8%と増加したあと、10月もポリエチレン製品のほか、需要期控えの灯油、冬物メリヤス製品等の増加から+2.5%と続伸。

生産財……9月は鉄鋼(粗鋼、普通鋼圧延鋼材)、

非鉄、化学製品、ゴム製品、繊維、段ボール、石油製品等軒並み増加したため+3.0%と増加し、10月も鉄鋼、非鉄、機械部品(軸受、ドリル)、電子機器部品、化学製品、合成繊維を中心に+1.2%の増加。

(在庫——製品在庫率は引き続き低下)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、9月-0.2%と微減(前月比減少したのは42年6月以来のこと)のあと、10月(速報)は+2.4%と増加した。内訳をみると、資本財輸送機械、非耐久消費財が減少した反面、需要期控えの石油ストーブや輸出好調の乗用車、カラーテレビ等の耐久消費財が著増したほか、一般資本財も増加した。このように在庫は増加したものの、前記のとおり出荷が高水準のため、生産者製品在庫率指数は9月に大幅低下をみたあと、10月も91.5、前月比-0.3%と引き続き水準を低めた。財別にみると、耐久消費財が上昇した(9月103.3→10月119.8)ほかは各財とも横ばいまたは低下をみており、とくに生産財は42年夏ごろの水準まで低落している。

最近の製品在庫の動きをやや詳しくみると次のとおり。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

		43年	44年				44年		
		12月	3月	6月	9月		8月	9月	10月
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		8月	9月	10月
鉱工業	指数	156.0	159.3	168.3	173.2		173.5	173.2	—
	前期(月)末比	8.9	2.1	5.6	2.9		1.8	0.2	2.4
	前年同期(月)末比	25.4	21.1	23.5	21.2		22.1	19.8	21.4
	製品在庫率	95.9	92.5	93.2	91.8		96.1	91.8	91.5
業	投資財	11.4	4.7	3.4	0.4		1.2	1.4	0.2
	資本財	11.4	5.9	1.3	2.7		1.1	3.0	0.2
	同(輸送機械を除く)	13.6	8.8	2.0	4.9		1.8	3.2	2.3
	輸送機械	10.9	5.5	16.2	9.5		3.5	2.3	—
	建設資材	11.6	3.6	9.3	4.8		4.9	0.4	0.1
	消費財	12.1	4.2	8.4	6.7		3.6	0.7	4.5
	耐久消費財	16.3	3.7	18.8	9.8		3.4	3.3	7.3
	非耐久消費財	6.7	7.6	2.8	1.1		2.0	2.3	0.9
生産財		4.5	8.6	4.3	0.3		0.4	0.5	1.0

(注) 1. 通産省調べ、44年10月は速報。
2. 前年同期(月)末比は、原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		43年	44年				44年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		8月	9月	10月
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		8月	9月	10月
鉱工業	指数	162.7	168.5	178.5	184.7		180.6	188.8	—
	前期(月)比	3.4	3.6	5.9	3.5		-2.2	4.5	2.7
	前年同期(月)比	15.9	14.9	16.2	17.6		15.5	18.8	20.8
業	投資財	4.9	3.6	7.9	1.0		-5.2	4.8	9.3
	資本財	4.5	4.0	8.5	-0.3		-5.9	5.0	10.8
	同(輸送機械を除く)	9.5	1.4	7.3	4.8		-1.8	6.9	1.3
	輸送機械	-3.3	10.0	9.0	-8.2		-14.4	1.4	—
	建設資材	5.8	2.3	6.9	3.9		-3.4	3.6	5.9
	消費財	2.9	4.6	4.8	3.6		-2.0	6.4	3.7
	耐久消費財	2.7	5.7	3.1	9.6		3.2	5.9	7.5
	非耐久消費財	3.3	2.8	5.1	1.4		-3.1	4.8	2.5
生産財		2.6	2.6	6.0	5.2		-0.2	3.0	1.2

(注) 1. 通産省調べ、44年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

一般資本財……9月は普通鋼鋼管、耕うん機、機械プレス、鉄鋼用ロールを主に-3.2%と減少したあと、10月は生産増に見合って金属加工機械(工作機械、機械プレス)、トラクター、風水力機械等が増加したため+2.3%の増加。

資本財輸送機械……9月は大・小型トラックの減少により-2.3%と減少したのち、10月も大型乗用車、トラックの減少を主因に大幅減少をみた模様。

建設資材……9月-0.4%と減少のあと、10月もセメント、板ガラス、スチールサッシの減少から-0.1%と引き続き減少。

耐久消費財……9月は需要期控えの石油ストーブ、新車発表を抑えた乗用車のほか、カメラ、白黒テレビ等を主に+3.3%の増加。10月も引き続き石油ストーブ、乗用車が増加したほか、輸出好調のカラータレテレビ等も増加し、+7.3%と著増。

非耐久消費財……9月-2.3%の減少のあと、10月も家庭用合成洗剤、万年筆等を中心に-0.9%と減少。

生産財……9月は鉄鋼(熱間圧延鋼材、冷延鋼板)、非鉄(銅、亜鉛、アルミ)、化学製品、石油(軽油、重油、ガソリン)等を主に-0.5%の減少。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44 年			44 年		
	3 月	6 月	9 月	7 月	8 月	9 月
在庫指数	141.6	138.7	145.9	138.8	142.3	145.9
前期(月)末比	1.1	-2.0	5.2	0.1	2.5	2.6
国産分	1.3	-0.3	3.9	0.5	1.8	1.6
素原材料	-0.9	-7.1	1.0	-0.8	-0.3	2.2
製品原材料	2.2	2.1	5.3	0.9	2.7	1.6
輸入分	0.4	-7.9	9.3	-0.4	4.8	4.7
素原材料	0.4	-7.6	8.7	-0.5	4.6	4.4
在庫率指数	84.2	78.5	79.7	77.2	78.7	79.7
国産分	79.6	75.2	75.6	74.5	75.4	75.6
素原材料	94.4	85.0	84.5	82.5	83.5	84.5
製品原材料	77.2	74.6	75.8	74.3	75.6	75.8
輸入分	97.7	91.3	93.7	86.1	89.5	93.7
素原材料	100.4	93.4	94.5	88.2	90.7	94.6

(注) 通産省調べ、44年9月は暫定。

その反動もあって10月は鉄鋼(熱間圧延鋼材、冷延鋼板)、非鉄(アルミ)、化学製品(硫酸、か性ソーダ)等が増加し、全体では+1.0%上伸。

9月の製造業原材料在庫(季節調整済み)は、8月(前月比+2.5%)に続いて+2.6%と高い伸びを示した。業種別には、鉄鋼、非鉄が前月に引き続き増加したほか、石油・石炭製品、船舶、繊維等も増勢を示した。一方、9月の原材料消費は鉄鋼、金属製品、化学、パルプ、紙等を中心に+1.2%の増加を示したため、原材料在庫率指数は79.7、前月比+1.3%と2ヵ月続連して上昇し、本年4、5月ごろの水準までもどった。内容的には、輸入素原材料在庫率指数が94.6、前月比+4.3%とかなり目だった増加を示している。

販売業者在庫(季節調整済み)は、7月-3.0%のあと、8月は+2.9%と増加。これは、銅、鉛を中心とする非鉄のほか、民生用電気機械、繊維原料・糸などが増加したため。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	44 年			44 年		
	1~3 月	4~6 月	7~9 月	7 月	8 月	9 月
製造工業	3.9	5.0	3.9	1.8	0.6	1.2
国産分	3.7	5.3	3.7	1.4	0.6	1.3
素原材料	3.4	3.0	2.5	2.1	-1.5	1.0
製品原材料	3.7	5.7	3.8	1.3	0.9	1.4
輸入分	6.6	1.6	5.6	5.7	0.8	0
素原材料	5.8	1.6	6.4	5.3	1.8	0.2
製品原材料	14.1	2.9	-1.7	8.3	-9.0	-1.9

(注) 通産省調べ、44年9月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43年	44年		44 年		
	12月	3 月	6 月	6 月	7 月	8 月
総合指数	147.9	146.9	145.6	145.6	141.2	145.3
前期(月)末比	3.9	-0.7	-0.9	1.5	-3.0	2.9
素原材料	1.1	-27.2	-14.0	0.7	2.6	7.6
製品	4.5	1.8	0.6	1.8	-3.7	2.3

(注) 通産省調べ、44年8月は暫定。

(設備投資——機械受注は根強い増勢)

設備投資動向と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、9月+6.9%と著増のあと、10月も+1.3%と増勢を続けた。3ヵ月移動平均によってみても、7月+0.4%、8月+2.6%、9月+3.5%とかなりの増勢を示しており、設備投資は依然根強い増加基調で推移しているものとみられる。

先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、9月に前月比-2.7%と小幅の減少を示したあと、10月は+10.4%の大幅増加となった。3ヵ月移動平均でみても、7月+3.2%、8月+1.1%、9月+2.0%とかなりの増勢を示しており、また前年比でも10月は+29.4%(製造業+35.7%)と相当の高水準にある。10月の動きを受注先業種別にみると、製造業では鉄鋼、機械からの受注が大幅に増加し、化学、造船、繊維、食品などからの受注も軒並み増加を示したため、前月比+14.1%と著増した。また、非製造業(船舶を除く)も電力からの増加を主因に、鉱業、建設の減少にもかかわらず、前月比+5.3%と相当増加した。

11月時点調査の本行「主要企業短期経済観測」(対象企業530社)によると、44年度の設備投資計画額は工事ペースで前年度比+24.0%(うち製造業同+24.9%)と前年度(+22.7%)を上回る高い伸びを示すものと見込まれている。これを期別に

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44 年			44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民 需	1,893 (+ 1.8)	2,142 (+13.1)	2,127 (- 0.7)	2,103 (+ 1.2)	2,202 (+ 4.7)	2,387 (+ 8.4)
同 (船舶を除く)	1,682 (- 1.4)	1,823 (+ 8.4)	2,019 (+10.8)	2,028 (- 1.3)	1,973 (- 2.7)	2,179 (+10.4)
製 造 業	1,055 (+ 4.6)	1,118 (+ 6.0)	1,280 (+14.5)	1,249 (- 6.3)	1,256 (+ 0.5)	1,434 (+14.1)
非 製 造 業	850 (- 1.2)	1,012 (+19.0)	863 (-14.7)	856 (+10.8)	961 (+12.2)	950 (- 1.1)
同 (船舶を除く)	627 (-13.6)	700 (+11.6)	759 (+ 8.4)	788 (+ 4.6)	736 (- 6.6)	775 (+ 5.3)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

みると、上期の前期比+10.3%に続き下期は同+13.0%とさらに伸び率が高まるものと予測されており、また8月時点調査(前年度比+21.9%)に比べても伸び率は一段と高まっている。業種別には、製造業では自動車、石油精製などの増勢が鈍化しているのを除き、鉄鋼、化学、電機、非鉄など多くの業種が大幅な増加を示しており、また非製造業では、電力、海運の伸びが目だつ。

◇商品市況は引き続き堅調

最近の商品市況をみると、鉄鋼は引き続き大勢高値横ばいに推移したが、一部(形鋼)に小反発を示すものもみられ、また夏場来低迷を続けてきた繊維(綿糸)が久方ぶりに反騰、非鉄(銅)も再び強調に転ずるなど、主力商品は全般にしっかり商状を呈している。その他の商品でも、石油、化学品、紙、砂糖等強含みを示す商品が目だつ。

このように、更月後大方の商品が再び堅調を示しているのは、海外市況の反騰(非鉄)や定期市場における仕手筋のおもわく買い(綿糸、生糸等)なども響いているが、ひところみられた高値警戒人気による修正安の動きが一巡し、需給実勢の強さがあらためて見直されていることによる面も大きいようである。鉄鋼についてもひところのような需給ひっ迫感はいかがかわれないものの、メーカーは内需の堅調、輸出引合いの好調持続を背景に、需給の先行きについて自信を強めており、繊維についても夏場来の大幅統落のあと、さすがに需給見直し気運が台頭し、商社の売急ぎ態度が改まったことが市況反騰の原因となっている。また、化学品、紙等では実需堅調に基づく需給引き締まりをながめて、メーカーが頃来の値上げ交渉を引き続き強腰で進めているものが多い。品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……鋼板類が高値横ばいに推移したほか、条鋼類では棒鋼が小幅軟化のあと下げ止まり模様となり、山形鋼は小幅上伸した。全般にひところに比し需給窮屈感はやや薄らいでいるものの、輸出引合いの好調持続もあり、メーカーは依然強気の態度を続けており、市況の動きには底堅いもの

がうかがわれる。

繊維……合繊が引き続き堅調なほか、綿糸、スフ糸、生糸等もそろって値上がりした。とくに綿糸は、10～12月物のメーカー市販一巡による目先売り圧力の減退などから、商社の売越バランスの調整が進んで急騰、スフ糸もこれに追随した。また生糸、そ毛糸については仕手の投機買いや玉締めが値上がりの主因となっている。もっとも、総じて繊維の需給地合いはここにきてとくに引き締まりに転じたとはみられない。

非鉄……9月来落ち着きぎみに推移してきた銅が、海外市況の値上がりをながめた国内ユーザーの買い進みから反騰、亜鉛も亜鉛鉄板メーカーからの引合いがおう盛でじり高を持続するなど総じて堅調に推移した。

石油……総じて強含み。C重油については、電力業界向けの値上げが小幅ながら実現し、ガソリンも頃来の値上げが徐々に末端に浸透しつつある。ただ灯油は温暖な気候から出荷がさほど伸び

ず、9月に打ち出された値上げも浸透難の状況にある。

セメント……更月後出荷が伸び悩みぎみで、メーカーの売腰がやや弱まっている。

木材……出荷がやや伸び悩み、米材を除き騰勢一服となった。

化学品……基礎薬品では、硫酸、塩素、塩酸、メタノール、カーバイド等の需給引き締まりが目立ち、メーカー出し値が引き上げられたものも少なくない。合成樹脂では、ポリスチレンの品不足傾向が続いているほか、高圧ポリエチレン、塩ビも需給は引き締まってきている。

紙……洋紙のうち、夏場に軟化が目だった上質紙は自主減産などからこのところ需給が引き締まりに転じており、またコート紙については出荷割当てを行なうなど品薄傾向が強く、強含み商状。一方、板紙も段ボール原紙を中心に品不足現象がみられ、メーカーは再度値上げを検討している。

砂糖……10月後半以降、人工甘味料チクロ問題

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエ イト	下降期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/7	上昇期 (ボトム 43/7) 43/7 →44/10	最 近 の 推 移							
				44 年			44 年 10 月			44年11月	
				8月	9月	10月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総 平 均	100.0	- 0.9	+ 4.0	+ 0.5	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1
食 料 品	15.7	+ 1.8	+ 6.1	- 0.2	+ 0.9	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.2	- 0.2	+ 0.3	- 0.2
繊 維 品	10.7	- 1.7	- 1.3	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	+ 0.2
鉄 鋼	9.7	- 1.7	+ 12.6	+ 1.8	+ 2.5	+ 1.3	+ 0.8	- 0.3	保 合	+ 0.2	+ 0.3
非 鉄 金 属	4.4	- 9.5	+ 23.0	+ 3.7	+ 3.4	- 0.8	- 0.8	- 0.2	- 0.3	+ 0.5	+ 0.7
金 属 製 品	3.8	- 0.6	+ 4.3	+ 0.2	+ 0.7	+ 0.4	保 合	保 合	+ 0.3	+ 0.6	保 合
機 械 器 具	22.1	+ 0.3	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1
石油・石炭・同製品	5.6	- 4.1	- 2.0	- 0.1	- 0.6	- 0.1	+ 0.1	- 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.2
木材・同製品	6.2	- 1.2	+ 6.7	+ 0.9	+ 1.7	+ 0.9	+ 0.5	- 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1
窯 業 製 品	3.0	+ 0.8	+ 2.5	- 0.1	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.2	保 合	+ 0.1	保 合	保 合
化 学 品	7.6	- 1.6	- 0.5	- 0.1	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	保 合
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.6	+ 3.9	+ 0.6	+ 1.2	+ 0.6	+ 0.4	保 合	+ 0.1	+ 0.5	保 合
雑 品 目	7.9	同水準	+ 3.4	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.4	+ 0.2	保 合	+ 0.2	保 合	保 合
工 業 製 品	82.0	- 0.5	+ 3.4	+ 0.5	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.2	保 合	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1
うち											
大 企 業 性	59.6	- 0.5	+ 2.4	+ 0.3	+ 0.8	+ 0.2					
中 小 企 業 性	21.0	- 0.1	+ 5.3	+ 0.6	+ 0.6	+ 0.6					
非 工 業 製 品	18.0	- 2.4	+ 6.6	+ 0.6	+ 1.2	+ 0.4	+ 0.4	保 合	- 0.3	保 合	保 合

(注) 本行調べ。

の発生を契機に需要増期待が強まり続伸した。

(10月の卸売物価——統騰)

10月の卸売物価総平均は、前月比で+0.3%と2月以来9ヵ月の連騰となり、前年同月比でも+3.2%の上昇となった。品目別にみると、8、9月に急騰した非鉄(銅地金、伸銅品、電線)が反落した反面、鉄鋼(普通鋼鋼材)、木材・同製品(原木、製材)は統騰し、食料(鶏肉、粗糖)、繊維(織物、衣類)、金属製品(ボルト・ナット、くぎ)、機械器具(ボール盤、配線器具)、化学品(カーバイド、ピッチ)、紙・パルプ・同製品(コート紙、段ボール原紙)等もじり高を示した。産業別分類では、工業製品が前月比+0.3%(大企業性+0.2%、中小企業性+0.6%)、非工業製品が同+0.4%の上昇となった。

11月にはいつてからも上旬、中旬とも総平均でそれぞれ前旬比+0.1%の上昇となった。品目別には、鉄鋼、非鉄、機械、木材・同製品等が統騰

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度 比上昇 率 43年度 平均	最近の推移				
			44 年				
			7 月	8 月	9 月	10 月	
総 平 均	100.0	+0.3	+0.1	+0.4	+0.7	+0.3	
食 料 品	12.6	+5.7	+0.1	+0.1	+0.5	保 合	
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-0.5	+0.5	-1.2	-0.6	
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-0.2	保 合	-0.2	-0.1	
織 物	2.8	-0.5	-0.1	+0.7	-0.1	-0.4	
繊維二次製品	3.2	+5.3	+0.6	+0.4	+0.6	+0.8	
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	+0.2	+1.9	+3.1	+1.5	
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	+0.3	+0.1	+0.1	+1.9	
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+1.2	+2.0	+4.4	-1.0	
金 属 製 品	4.6	+0.6	+0.2	+0.4	+0.6	+1.0	
一 般 機 械	10.4	+2.1	+0.1	+0.1	+0.3	+0.1	
輸 送 機 械	8.3	-1.6	保 合	保 合	保 合	保 合	
電 気 機 械 器 具	9.1	-1.0	保 合	+0.2	+0.1	+0.4	
石油・石炭製品	3.7	-1.3	+0.1	+0.2	保 合	+0.2	
木材・同製品	5.0	+5.1	+0.7	+0.4	+0.5	+1.4	
窯 業 製 品	3.4	+0.9	保 合	保 合	+0.3	+0.1	
化 学 品	7.8	-2.6	-0.5	保 合	+0.1	-0.2	
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	+0.4	+0.6	+1.1	+0.5	
雑 品 目	6.1	+0.2	+0.1	+0.1	+0.3	-0.2	

(注) 本行調べ。

し、上旬に下落した繊維品も中旬にはいり反発した。産業別分類では、工業製品は上旬、中旬それぞれ前旬比+0.2%、+0.1%の上昇を示したが、非工業製品は、上、中旬とも保合いに推移した。

(10月の工業製品生産者物価——前月比+0.3%の上昇)

10月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比+0.3%上昇した。品目別には、天然および化学繊維、合成繊維、織物等がじり安となったほか、非鉄金属、化学品等は反落したが、鉄鋼(普通鋼鋼材、特殊鋼鋼材)、機械類(一般機械、電気機械器具)、繊維二次製品、木材・同製品等がじり高をたどった。

(11月の消費者物価(東京)——季節商品の値下がりから統落)

11月の消費者物価(東京)は総合で前月比-0.2%と統落した(10月同-0.2%)。これは、季節商品(生鮮魚介、野菜)の値下がりによるもので、これを除く総合では、前月比+0.4%とじり高をたどっている。費目別には、食料費が上記季節商品のほか、肉類(豚肉)の値下がりもあって前月比

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウ	エ	前年度比 上 昇 率		最近の推移			最 前 月 同 比
					42 年 度 平 均	43 年 度 平 均	44 年			
							9 月	10月	11 月	
消 費 者 物 価	東 京	総 合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.1	+5.2	+1.3	-0.2	-0.2	+ 5.5	
			91.4	+3.9	+5.6	+1.2	+0.7	+0.4	+ 5.2	
	食 料	40.9	+5.7	+6.5	+0.9	-0.9	-1.2	+ 5.5		
		住 居	10.7	+3.7	+2.4	+0.8	+0.3	+0.3	+ 2.8	
		光 熱	4.5	+0.1	+0.3	-0.1	+0.2	+0.3	+ 0.3	
		被 服	13.0	+3.0	+5.5	+5.4	+1.0	+0.2	+ 7.6	
		雑 費	31.0	+3.4	+5.3	+0.3	+0.3	+0.9	+ 6.3	
	全 国	総 合	100.0	+4.2	+4.9	+0.7	+0.5		+ 6.0	
		(季節商品 を除く)	91.4	+3.9	+5.3	+0.8	+0.8		+ 5.1	
	上 の 5 都 市 以 下	総 合	100.0	+4.1	+4.9	+0.7	+0.5		+ 6.2	
		(季節商品 を除く)	91.3	+3.9	+5.3	+0.9	+0.8		+ 5.3	
輸 入 物 価	輸 出		+0.2	+0.6	+0.5	+0.6		+ 3.9		
	輸 入		-0.4	-0.3	-0.4	+0.1		+ 3.5		
	交易条件		+0.7	+0.9	+0.9	+0.5		+ 0.4		

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

-1.2% とかなりの下落を示したが、そのほかの費目は軒並み上昇した。すなわち、住居費は家具、台所用品の値上がりから、光熱費は燃料、被服費は身の回り品、雑費は教養娯楽(新聞代、カメラ)、理容衛生(理髪料)を中心にいずれもかなりの上昇となった。

(10月の輸出入物価——ともに上昇)

10月の輸出物価は総平均で前月比+0.6% とかなりの上昇となった。品目別には、食料品(かん詰)、繊維品(衣類)、金属・同製品(鉄鋼)、機械器具(船舶)等が値上がりした反面、化学品(人造プラスチック)、雑品目(合板)等は値下がりした。一方、輸入物価は総平均で+0.1% と反発。これは食料品(粗糖)、繊維品(原綿)が値上がりしたため、反面、金属(銅、鉱石、地金)、機械器具(電子計算機)、化学製品(医薬品)、鉱物性燃料(原油)等は微落した。

以上の結果、交易条件指数は、前月比0.5ポイント上昇した。

◇国際収支は引き続き相当の黒字

10月の国際収支は、貿易収支が季節的事情を主因に黒字幅を縮小したこと、長期資本収支が悪化したことなどから、前月に比べれば受超額が減少したものの、なお187百万ドルの黒字と引き続き順調な推移を示した。貿易収支(季節調整済み)は、輸入が根強い増加を続けている反面、輸出も好調を持続したため相当な黒字(248百万ドル、7～9月平均269百万ドル)を維持した。

長期資本収支は、本邦資本の流出が増加した一方、外資の流入が減少したため、逆調に転じた(30百万ドルの赤字、前月は24百万ドルの黒字)。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	44 年			44 年			前年 10月
	1～3月	4～6月	7～9月	8月	9月	10月	
経 常 収 支	177	558	683	205	233	171	171
貿易収支	607	920	1,083	334	378	290	283
輸 出	3,283	3,801	4,160	1,353	1,417	1,398	1,165
輸 入	2,676	2,881	3,077	1,019	1,039	1,108	882
貿易外収支	△ 377	△ 309	△ 362	△ 117	△ 127	△ 107	△ 100
移 転 収 支	△ 53	△ 53	△ 38	△ 12	△ 18	△ 12	△ 12
長期資本収支	47	79	99	△ 58	24	30	31
基礎的収支	224 (567)	637 (773)	584 (309)	147 (49)	257 (151)	141 (99)	202 (161)
短期資本収支	△ 7	△ 16	32	38	26	17	7
誤 差 脱 漏	61	16	42	12	58	29	10
総 合 収 支	278	637	658	197	341	187	219
金 融 勘 定 外 貨 準 備 増 減 そ の 他	278 322 △ 44	637 124 761	658 137 521	197 92 105	341 100 241	187 8 179	219 194 25
外 貨 準 備 高 為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	3,213 △ 830	3,089 △ 99	3,226 391	3,126 183	3,226 391	3,234 577	2,554 △ 831

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
43年								
7～9月	1,074 (+ 2.7)	868 (+ 5.8)	206	1,098 (+ 3.2)	1,107 (+ 6.3)	881 (+ 4.2)	1,162 (+ 3.6)	997 (+ 5.5)
10～12月	1,157 (+ 7.7)	894 (+ 3.1)	263	1,174 (+ 7.0)	1,142 (+ 3.2)	956 (+ 8.5)	1,234 (+ 6.2)	1,047 (+ 5.0)
44年								
1～3月	1,224 (+ 5.8)	907 (+ 1.4)	317	1,248 (+ 6.3)	1,147 (+ 0.4)	1,024 (+ 7.1)	1,254 (+ 1.6)	1,063 (+ 1.6)
4～6月	1,275 (+ 4.2)	923 (+ 1.7)	352	1,300 (+ 4.1)	1,156 (+ 0.8)	1,039 (+ 1.5)	1,348 (+ 7.5)	1,238 (+ 16.5)
7～9月	1,336 (+ 4.8)	1,067 (+ 15.6)	269	1,372 (+ 5.6)	1,347 (+ 16.5)	1,128 (+ 8.5)	1,418 (+ 5.2)	1,252 (+ 1.1)
44年 6 月	1,312 (+ 3.9)	996 (+ 9.3)	316	1,347 (+ 5.6)	1,243 (+ 8.3)	1,060 (+ 2.9)	1,392 (+ 4.2)	1,200 (+ 2.5)
7 月	1,346 (+ 2.6)	1,046 (+ 5.0)	300	1,390 (+ 3.3)	1,306 (+ 5.1)	1,111 (+ 4.8)	1,445 (+ 3.8)	1,229 (+ 2.5)
8 月	1,308 (- 2.8)	1,072 (+ 2.5)	236	1,335 (- 4.0)	1,342 (+ 2.7)	1,123 (+ 1.1)	1,331 (- 7.9)	1,247 (+ 1.4)
9 月	1,355 (+ 3.6)	1,083 (+ 1.0)	272	1,392 (+ 4.3)	1,392 (+ 3.7)	1,150 (+ 2.4)	1,478 (+ 11.1)	1,281 (+ 2.7)
10 月	1,356 (+ 0.1)	1,108 (+ 2.3)	248	1,372 (- 1.5)	1,390 (- 0.2)	1,194 (+ 3.8)	516 (+ 2.5)	1,336 (+ 4.4)

(注) 1. 四半期計数は月平均額。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

外資の流入状況をみると、証券投資が前月比では減少したものの、米国機関投資家の大口投資を中心に依然相当の活況を呈し(流入超61百万ドル、前月107百万ドル)、外債発行(30百万ドル)、インパクト・ローン受入れ(受入れ超23百万ドル)も引き続きかなりの額に上った。

金融勘定では、為替銀行の対外ポジションが円シフトの進捗や保有輸出手形の増加を主因に186

百万ドルの大幅改善を示し、外貨準備は8百万ドルの増加にとどまった。為銀の円シフトは、前月はユーロ・マネーの返済を中心に進められたが、当月はユーロ金利が低下したことから、主として外銀借入れの返済により行なわれた。

10月の輸出は、季節調整後では前月比+0.1%と微増にとどまったが、前年同月の水準を2割方上回り、引き続き順調に推移した。商品別(通関

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44 年			44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8 月	9 月	10月
食 料 品	103 (- 1)	171 (+ 91)	169 (+ 53)	60 (+ 70)	54 (+ 18)	42 (- 13)
魚 介 類	53 (- 26)	57 (+ 10)	82 (+ 12)	27 (+ 18)	31 (- 3)	28 (- 19)
繊維製品	472 (+ 29)	561 (+ 16)	582 (+ 13)	193 (+ 7)	191 (+ 17)	198 (+ 8)
綿 織 物	51 (+ 12)	56 (- 5)	54 (- 10)	18 (- 13)	19 (- 8)	18 (- 17)
合繊維物	97 (+ 41)	121 (+ 33)	136 (+ 32)	45 (+ 28)	46 (+ 35)	51 (+ 30)
化学製品	200 (+ 34)	225 (+ 9)	292 (+ 33)	97 (+ 26)	100 (+ 42)	100 (+ 33)
非金属 鉱物製品	85 (+ 20)	99 (+ 20)	100 (+ 23)	33 (+ 24)	34 (+ 26)	34 (+ 11)
金属製品	604 (+ 25)	695 (+ 19)	771 (+ 25)	243 (+ 18)	274 (+ 33)	259 (+ 18)
鉄 鋼	448 (+ 27)	508 (+ 19)	559 (+ 23)	173 (+ 15)	206 (+ 31)	193 (+ 20)
機械機器	1,547 (+ 33)	1,690 (+ 24)	1,860 (+ 27)	595 (+ 23)	641 (+ 19)	645 (+ 31)
(船 舶 を除く)	1,232 (+ 40)	1,450 (+ 31)	1,603 (+ 36)	533 (+ 32)	536 (+ 34)	554 (+ 30)
テレビ	61 (+ 56)	83 (+ 47)	110 (+ 31)	39 (+ 38)	38 (+ 17)	37 (+ 7)
ラジオ	106 (+ 46)	136 (+ 40)	164 (+ 37)	52 (+ 34)	57 (+ 36)	60 (+ 43)
自動車	221 (+ 61)	235 (+ 32)	268 (+ 45)	88 (+ 49)	88 (+ 36)	90 (+ 42)
船 舶	316 (+ 13)	240 (- 5)	257 (- 8)	62 (- 21)	106 (- 24)	91 (+ 34)
光学機器	89 (+ 22)	111 (+ 23)	116 (+ 18)	37 (+ 4)	38 (+ 22)	40 (+ 16)
そ の 他	344 (+ 26)	436 (+ 21)	472 (+ 22)	162 (+ 18)	150 (+ 25)	146 (+ 13)
合 計	3,355 (+ 29)	3,878 (+ 22)	4,246 (+ 25)	1,383 (+ 21)	1,445 (+ 23)	1,424 (+ 21)
(船舶を 除く)	3,039 (+ 30)	3,637 (+ 25)	3,989 (+ 28)	1,321 (+ 24)	1,339 (+ 29)	1,333 (+ 20)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44 年			44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8 月	9 月	10月
食 料 品	504 (+ 9)	515 (+ 6)	538 (+ 21)	163 (+ 5)	196 (+ 34)	189 (+ 15)
小 麦	72 (- 2)	75 (+ 9)	75 (+ 2)	26 (- 9)	20 (- 17)	22 (+ 2)
とうも ろこし	59 (+ 1)	63 (- 6)	54 (+ 1)	12 (- 33)	20 (+ 28)	24 (+ 22)
砂 糖	53 (+ 16)	41 (- 6)	48 (+ 85)	15 (+ 62)	19 (+ 146)	17 (+ 41)
原 燃 料	1,919 (+ 7)	2,033 (+ 6)	2,176 (+ 17)	727 (+ 21)	731 (+ 20)	802 (+ 23)
羊 毛	99 (+ 20)	98 (+ 2)	108 (+ 17)	33 (+ 7)	33 (+ 27)	30 (+ 8)
綿 花	108 (- 14)	115 (- 26)	97 (- 14)	35 (- 2)	33 (- 13)	34 (- 19)
鉄 鉱 石	218 (+ 17)	244 (+ 12)	253 (+ 20)	84 (+ 16)	83 (+ 34)	91 (+ 26)
鉄鋼くず	32 (- 19)	42 (+ 25)	66 (+ 103)	22 (+ 154)	24 (+ 95)	21 (+ 7)
大 豆	66 (- 6)	69 (+ 1)	69 (+ 5)	16 (- 10)	25 (+ 20)	23 (- 4)
木 材	265 (+ 6)	331 (+ 5)	337 (+ 12)	108 (+ 11)	111 (+ 19)	125 (+ 22)
石 炭	149 (+ 22)	157 (+ 25)	185 (+ 37)	62 (+ 51)	62 (+ 37)	60 (+ 36)
原 油	464 (+ 11)	451 (+ 10)	456 (+ 13)	162 (+ 16)	150 (+ 6)	181 (+ 20)
化学製品	185 (+ 12)	194 (+ 23)	195 (+ 12)	61 (+ 13)	65 (+ 16)	71 (+ 4)
機械機器	364 (+ 10)	404 (+ 19)	438 (+ 43)	153 (+ 64)	144 (+ 43)	135 (+ 25)
鉄 鋼	66 (+ 3)	52 (+ 2)	50 (- 11)	16 (- 20)	19 (+ 1)	24 (+ 23)
非鉄金属	212 (+ 32)	206 (+ 35)	244 (+ 68)	81 (+ 63)	93 (+ 83)	84 (+ 52)
そ の 他	172 (+ 19)	196 (+ 32)	243 (+ 36)	82 (+ 38)	82 (+ 42)	87 (+ 43)
合 計	3,422 (+ 10)	3,600 (+ 11)	3,883 (+ 23)	1,283 (+ 24)	1,329 (+ 28)	1,392 (+ 24)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

ベース)にみると、食料品、天然繊維、合板等が前年をかなり下回った反面、化学品、自動車、ラジオ、テープレコーダー、鉄鋼等多数の商品がこれまでと同様好調を持続した。また地域別には、米国向け、東南アジア向けの増勢が鈍っている(それぞれ前年同月比+11%、+12%)が、その他は、西欧、中南米、共産圏などの各地域向けを中心に好調が続けている。なお、対米輸出の伸び率低下は、鉄鋼が自主規制の関係から前年比大幅減少(-27%)をみたことによる面もあり、これまでの基調が大きく変わったとはみられないが、米国の輸入が夏ごろ以降漸次増勢を弱めている(前年同月比で4~6月+18.3%、7~9月+8.8%、7月+12.5%、8月+10.7%、9月+3.5%)ことには今後注目を要しよう。

10月の輸出信用状接受額は、前年同月比+28.7%、季節調整後の前月比でも+3.8%と続伸した。

品目別にみると電気機械、自動車、鉄鋼(欧州、中南米向け)等が好調を持続した。

10月の輸入は、前年同月比+25.6%、季節調整後の前月比+2.3%とかなりの増加を示した。商品別動向(通関ベース)をみると、鉄鉱石、石炭、非鉄(鉱石、地金)、事務用機械等が著増傾向が続けているほか、木材、とうもろこし等もここ一兩月はかなり増加した。

先行指標の輸入承認額も前年同月比+29.0%、季節調整後前月比+4.4%と依然顕著な増勢を持続している。鉄鋼・非鉄原料、機械が引き続き高水準のほか、最近はとくに食料、雑品の増加が目だつ。夏ごろからの輸入の増加に伴い、輸入素原材料在庫は8月に引き続き9月も相当増加した。9月は輸入素原材料消費が微増にとどまったこともあって同在庫率指数も94.6とかなり回復した。